（個　人）　　（報告　　田　中）

山（山域・ルート）　荒 沢 岳

【日時】２３年１０月１２日（水）　雨のち晴れ

【メンバー】

田　中　　（計　１　名）

荒沢岳（標高１，９６９ｍ）

荒沢岳登山口 → 前山 → 前嵓 → 荒沢岳 → 前嵓 → 前山 → 荒沢岳登山口

【行動記録】

大宮０時４４分（クルマ）⇒（関越道）⇒荒沢岳登山口（４時－６時３４分）⇒前山（７時１８分）⇒（９時１０分－９時２５分)⇒前嵓(９時１０分)⇒荒沢岳（１０時４５分－１０時５７分）⇒前嵓（１２時１１分）⇒前山（１４時）⇒荒沢岳登山口（１４時３１分）

上り　４時間　　下り　３時間半

【装備・食料等】

携帯電話、ヘッドランプ、雨具、コンパス、地図、救急薬、ツエルト

水（２．５リットル)、食事（朝・昼食)、行動食

【感想】

交通事故による六日町ＩＣから先の通行止め、天気予報を疑いたくなるような強い雨、崖崩れによる尾瀬、枝折峠方面の通行禁止。前途多難な出だしとなったが、なんとか登山口のある銀山平に４時に着いて仮眠を取る。周囲が明るくなって目が覚めたが、雨は止みそうもなかった。予定より３０分遅らせて、雨具をつけての出発となった。雨の中を登る山でないので、前嵓下（鎖場の始まり）まで行って降っていれば引き返すつもりだった。しかし、３０分もすると青空が見えてきた。段々と周囲の山々が姿を現し、日差しを浴びて真っ盛りの紅葉がきれいだ。「ここから岩場」の表示が出てくると、鎖場が始まる。青空を背景に、赤や黄、緑に飾られた前嵓の岩肌が見事である。景色を楽しみながらも、緊張の連続が１時間近く続く。前嵓山頂で一休みも、荒沢山までの４３０ｍの標高差を埋めるには、まだまだ遠く感じられた。途中、二人のハイカーとすれ違った。ようやく山頂に着くと、待っていたのは３６０度の大展望だった。越後駒、中ノ岳の連なりの後ろに八海山も見えた。山頂を後に、一層の慎重な気持ちを持って鎖場を下った。